

伊豆市議会議員 市政報告 小長谷順二 通信

Vol.27 2019.10



小長谷順二 後援会事務所
伊豆市土肥 450-7
TEL/FAX 0558-98-0400
<http://konagayajunji.web.fc2.com/>
Email photo-ko@yc5.so-net.ne.jp

facebook

小長谷順二 検索

仲秋の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。令和元年9月定例会は、平成30年度伊豆市一般会計・特別会計の認定や、令和元年度伊豆市一般会計・特別会計補正予算、条例の制定・一部改正など、多くの議案が上程され、本会議の質疑を経て、常任委員会、連合審査会の審議の結果、原案の通り可決・認定されました。

平成30年度伊豆市一般会計の収支概要は、歳入総額204億7,801万円に対して、歳出総額は195億6,298万円です。差し引き9億1,503万円になりますが、翌年の繰り越し財源を差し引くと実質収支額は7億4,204万円となりました。新こども園の建設や道の駅整備事業などの大型事業の他に、合併特例債の借り入れ22億8,000万円を地域振興基金への積立金として積み立てたことなどから、前年度より37億463万円の大幅な増額となりました。これからも財政の健全化判断比率を注視しつつ、市民が期待し持続成長する「伊豆市の将来像」を具体的に明示し、効果的な政策が実施されることを希望します。

令和元年9月定例会 一般会計補正予算

旧橋保育園解体工事	1,800万円
旧天城農村環境改善センター及び旧天城温泉プール解体工事	6,400万円
修善寺駅Wi-Fi整備工事(県費100%)	1,220万円
土肥支所遮煙整備工事の追加に伴う改修工事	1,030万円
修善寺自然公園施設改修工事	289万円
中伊豆小学校黒板入れ替え改修工事	346万円
台風15号被害による最終処分場復旧工事	130万円
台風15号被害による農地他災害復旧工事	1,430万円

令和2年度 伊豆市予算編成に係る要望書提出

会派有志で9月27日に日頃の議員活動や議会報告会で寄せられたご意見を行政に届け、市政に反映させるために、令和2年度の予算要望書を市長に提出しました。会派代表者会議で議論を重ね、会派を超えた要望書の提出は今回が初めての試みとなりました。要望書は移住定住、子育て、教育、結婚奨励、地域交通、防災、観光、森林整備、生活環境、医療・福祉・介護の充実、議会の11項目です。

IZU未来の会派長の小長谷が代表で趣旨を説明し市長に提出しました。同日午後より部課長との要望書に関する意見交換も行いました。



会派代表者会から要望書を提出

(株) FMIS との意見交換会

8月28日、全員協議会に於いて、初となるFMIS(エフエムイズ)との意見交換会を行いました。FMISは開局時214名の民間の皆様から2,505万円の出資を受け、平成25年6月に開局したコミュニティFMラジオ局です。開局の目的は地域に密着した身近な話題を生放送で提供し、地域の情報交換を深め、伊豆市を元気にすること。そして災害時には地域にきめ細やかな情報を迅速に届けることです。伊豆市にとって必要不可欠な情報ラジオ局なので、今後も市民やリスナーの支えと行政の支援をお願いしたいと思っています。

伊豆市・伊豆の国市 廃棄物処理施設の建設決定

伊豆市・伊豆の国市廃棄物処理施設組合議会は9月25日、2019年第2回臨時会を開会し、伊豆市佐野地区に建設する新ごみ処理施設の建設工事請負契約の締結を賛成多数(4対3)で可決しました。運営業務委託を含め事業費172億7,240万円(税抜き)で建設が決定しました。施設の設計、建設、20年間の維持管理を2022年10月の稼働を目指して、地元3社の企業を含む「桜グループ」が落札しました。

安心・安全で環境にやさしく、有事の際にも自家発電を行える焼却施設の一日も早い完成を心より願っています。



処理建設予定地の佐野地区

第26回
小長谷順二 市政報告会開催
令和元年10月14日(月)PM7時~
伊豆市土肥支所 4F 読書室

9月15日(日)に旧土肥小学校活用イベントを土肥・小土肥地域づくり協議会主催、T0izu B0x協力で開催しました。いちじくジャム作り教室、健康づくりコーナー、絵画体験教室、フィットネス体験、グランドゴルフ大会、運動器具体験コーナー、測定器具による体力チェック、休憩サロン、School ピアガーデンなど跡地活用アンケートで要望の多かったコーナーを中心に行いましたので、関係者で成果を検証し、次回開催のステップにしたいと考えています。

小長谷順二の一般質問（9月定例会 令和元年9月4日）

1.お試し住宅の活用

Q 認定NPO法人ふるさと回帰支援センターの調査によると、2018年の移住希望地ランキングは静岡県が2位に順位を上げました。移住施策として本年3月からスタートした土肥地区の旧土木事務所官舎をリニューアルした2世帯が体験居住できる「お試し住宅」の活用状況について伺います。

A 当市は人口流出が多い一方で移住希望もたくさんあります。借家で一戸建ての希望が多く、この事業をスタートしました。半年間で7件の活用実績があり、1件が移住につながりました。利用開始の冒頭で市の概要説明を行い、公用車で土肥地区を案内し最終日に生活体験を含む活動報告書とアンケートの提出をいただき意見交換を行っています。提供する空き家が少ないのが課題なので、宅建業者や地域の方々と協力しながら提供物件を増やしていきたい。

意見 お試し住宅に興味を持ち、次のステップとして数か月間滞在できる施設を紹介しその地域が気に入り、移住に繋げる。このお試し住宅をきっかけに、中期、長期のお試し移住施策を検討し、移住定住の推進に力を注いで頂きたいと願っています。



2世帯体験居住「お試し住宅」

2.サテライトオフィス誘致

Q サテライトオフィスは、企業・地域ともにいくつものメリットがあり、全国的に広がりを見せています。平成30年度予算で可決したICT企業誘致推進事業で閉園した「旧狩野幼稚園」をサテライトオフィスに改修し、進出企業の募集を行う事業の進捗状況について伺います。

A 4つの企業が入居できるサテライトオフィスを「狩野ベース」として改修を行い、現在入居に向けた施設の管理・運営について規則等の整備を進めており、この秋を目途に公募を行う予定です。入居期間は原則3年とし、その後は空き家等を活用し、引き続き市内に留まって頂けるように支援をしていく事で、IT企業等の市内集積や雇用の場の確保による産業振興を図ることを目指しています。

意見 伊豆市の地理的条件や自然環境は申し分がないので、首都圏から近いがゆえの、デュアルビジネスなどの手法を用いて、さらに工夫を重ね静岡県そして民間企業や地域住民と連携をとりながら、サテライトオフィスの誘致に取り組んで頂きたいと思っています。



企業誘致施設「狩野ベース」

3.森林の維持管理

Q 森林を管理する権限と責務はその所有者にあり、保有する森林の手入れを放棄したり、適切な整備や保全を怠ったりすれば、森林の公益的機能は大幅に低下します。今後、少子高齢化など担い手不足で、森林の維持管理について公的役割や責任の分担が増えていくのではないのでしょうか。これらの課題をどのように捉えていますか。

A 森林環境贈与税の創設により、今年は伊豆市で1,600万円、最終的には毎年6,000万円が森林の整備だけに入ってくるので、この税金を有効に活用させて頂き、山の価値を高めると共に防災、生活環境や自然環境保全のために森林組合と連携し、山の管理を行える収益を上げながら、適正な森林整備を行っていききたい。

意見 有害鳥獣対策や災害の発生を防ぐ森林整備は極めて重要な政策です。現在、国産材の自給率は36%と1980年代の好調期水準に上がってきており、山主への還元額が増えれば、林業経営を続ける意欲も高まり、後継者の育成や再生林にもつながると考えています。



利用間伐による森林整備